

松本清張記念館

◆館報◆

2018.3
第57号



開館当時の記念館

開館20年の軌跡展

「終わりなき探求」

好評開催中

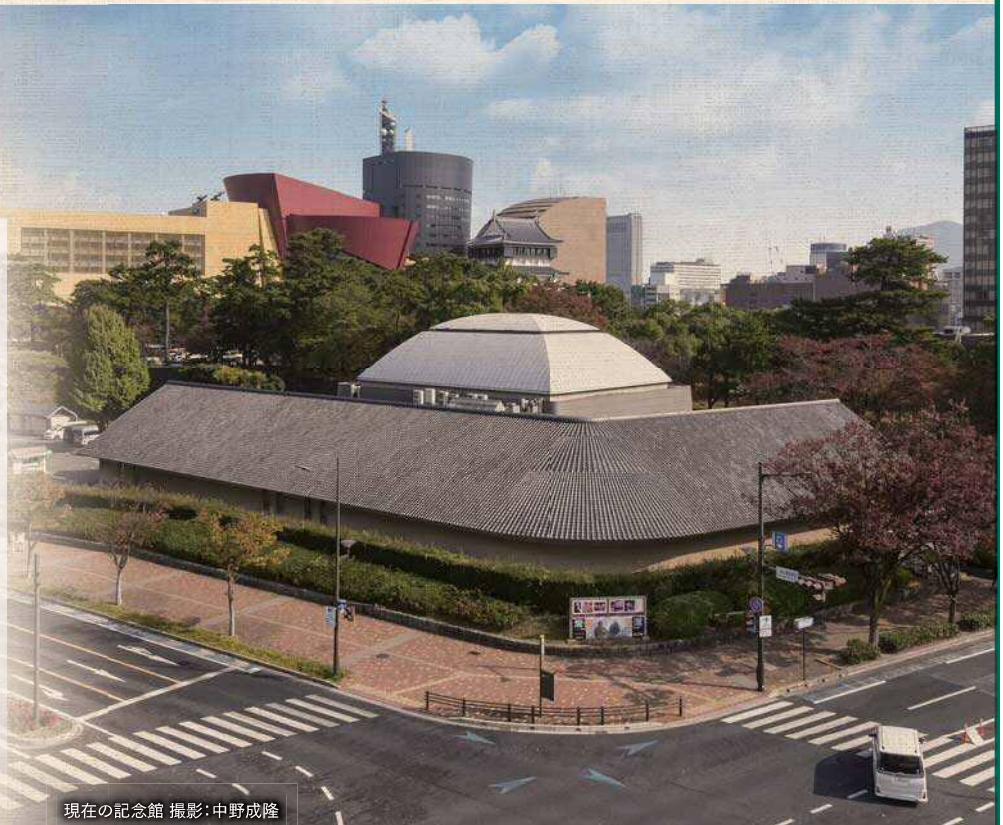
P4をご参照ください。



あれから、20年。そして、今から。

目次

松本清張研究会 第37回研究発表会	2
開館20周年記念フ列事業	
「開館20年の軌跡展」終わりなき探求	4
開館20周年記念イベント	4
20周年企画 あふれる想いを	5
清張オマージュ作品募集	5
展示品紹介	6
点描 作品の舞台を訪ねて	6
研究誌「松本清張研究」第十九号発刊	7
友の会活動報告	7
トピックス	8



現在の記念館 撮影：中野成隆

講演

松本清張

『両像・森鷗外』を読む

山崎 一穎

森鷗外記念館(津和野)館長
跡見学園理事長



はじめに

私は清張研究者ではありませんが、清張の「或る『小倉日記』伝」について論文を二本だけ書いたことがあります。清張が書いた鷗外関係の作品としては、他にも「鷗外の婢」や「両像・森鷗外」といったものが挙げられるでしょう。特に清張は「両像・森鷗外」の中で鷗外研究者たちの名前を挙げ、その解釈や認識について批判しています。しかし、これまで鷗外研究者たちは、これらの作品をまとも論じてきませんでした。確かに「両像・森鷗外」の記述は、あちこちに話題が飛んで読みにくい部分もあります。しかし、それらをつずつ丁寧に読み解いていくと、

清張が当時指摘していたことについて、いまだに私たち鷗外研究者が起えられていない視点というものが浮き彫りになってきます。「両像・森鷗外」を読む際に留意すべきは、この作品が執筆された当時(初出連載は昭和六十年、単行本化は平成六年)の鷗外研究の水準と照らし評価が必要だという点です。研究は日々進んでおり、当然それ以降に判明した資料等もあるわけですから、いま現在の水準から批評すべきではありません。

鷗外の墓参について

鷗外は明治33年春、軍医部長会議出席のため小倉から上京する途上で、近江にある祖父の墓に参っています。清張は「両像・森鷗外」の冒頭でこの墓参について取り上げ、鷗外研究者たちはその理由や目的についてほとんど問題にしないで指摘しています。さらに鷗外の「小倉日記」をはじめとする様々な文献の記述をふまえた上で、清張自身の考察を述べています。それを要約すると、

当時小倉に左遷中だった鷗外にとって、左遷人事に関与した上司や先に出世したかつての同級生たちも参加するこの会議への出席は「屈辱の出張」であった。かつて鷗外の祖父森白仙は、参勤交代に藩医として随行したが、江戸で脚気を患ったため藩主の帰国には付き従えず、療養後

に遅れて津和野へ帰る途上の近江で斃死した。代々宮仕えの医者をしてきた森家にとって、道中で藩主の健康を管理するといふ勤めを果たせなかった白仙は、いわば不忠の臣である。鷗外は自身の当時の境遇と、亡き祖父を重ね合わせて思慕の念に駆られ、生涯でただ一度だけ、このタイミングで祖父の墓に参ったのではないか

といった内容です。この清張の考察についてはひとつの解釈ですから、正しいとか間違っているという判断はできません。しかし、この解釈を否定したり超えたりできるだけの答えは、いまだに鷗外研究者からも出せていません。つまり、清張が投げかけた「鷗外はなぜ生涯で二度だけ、参屈した小倉時代に祖父の墓に参ったのか」という発問自体は、いまだに生きているわけです。

鷗外の離婚と西周との関係について

鷗外の結婚や離婚に関しても、清張はかなりの紙幅を費やしています。鷗外はドイツ留学から帰国した翌年、西周じゅうしゅうの媒酌で最初の妻 赤松登志子と結婚しましたが、すぐに離婚に至ります。この経過には、鷗外留学時の現地女性との恋愛、華族である赤松家との家風の相違、そして嫁姑問題といった諸々の事情が関係していたと考えられますが、いずれにしても森家の側から一方的で理不尽な離婚であった模様です。実質的な仲人であった西周は鷗外の縁戚にあたり、鷗外の幼い頃からいろいろと面倒をみていた人物です。さらに西周と登志子の父とは懇意の仲でもありました。

したがって清張はまず、この離婚について西周がかなり立腹したはずだと推理しました。実際に西家の子孫が後年、「西周が鷗外を破門し出入り禁止にした」旨を語っていることも挙げられています。しかしその一方で、西周が没した直後、西の養子から依頼を受けた鷗外は「西周伝」を執筆しているのも事実です。ここで清張は「なぜ鷗外は自分を破門したはずの人物の評伝を書いたのか」「なぜ西家は先代が破門したはずの鷗外に執筆を依頼したのか」という疑問に至ったわけです。

もちろん鷗外の離婚や西周との関係については、それまでも鷗外研究者たちが様々な研究を重ねています。そのなかには、この離婚は鷗外による「封建家庭への反逆、旧幕臣団への挑戦」だとする見解もありました。しかしこれが清張の目には、「その解決を見いだし得ないままに、他に求めようと苦心している」「研究家の穿鑿は、離婚の事情からすすんで厄介な論理展開になる」と映ったようです。つまり、先述した清張の根本的な疑問に対して、正面から答えたものはなかったのです。

ただしこの件に関して清張は、当事者である鷗外・西周両名の日記等には明確な記述がなく、それ以外の資料も関係者の視点から書かれたものや後年の子孫による回想が多いことなどを挙げ、

感情的なわだかまりはあったにせよ、そもそも西周から破門という厳しい処分がなされたわけではなく、鷗外が謹慎の意を表して直接の交流を遠慮した結果、それが周囲の目には出入り禁止のように映ったのではないか

との結論に至っています。このように「破門」がなかつたとする点については、大方の鷗外研究者の認識とさほど変わりありません。

清張の「読み」

本当の意味で清張の読みが鋭いと思わせるのは、この辺りの経験が鷗外の後年の作品に反映されているのではないかと指摘です。鷗外は後妻志げと母との嫁姑問題をもとに「半日」という作品を執筆したと一般的には言われていますが、先妻の登志子との婚姻期間中にすでに同様のトラブルが起きていたことを、清張は見抜いています。さらに、鷗外が晩年執筆した史伝「伊澤蘭軒」における尾藤三洲と頼山陽の関係が、西周と鷗外の関係に相似していることにも言及しています。こうした視点は、それまでの鷗外研究者の間にはなかつたと言えます。

清張はその他にも、鷗外研究者たちに対して様々な批判・指摘を行つたうえで、自身の考えを述べています。鷗外の「両像」、つまり官僚と小説家という二つの立場で捉える際の見方や、小倉勤務は本当に「左遷」だったのか、そして鷗外の殉死観やいわゆる「史伝」作品をめぐる議論まで、たいへん多岐にわたる内容です。これらの多くから伝わってくるのは、清張自身が感じた疑問や謎をもとに、資料に直接あたつて読み取つた事実と、それを取り巻く状況から導いた推理とを組み合わせ、答えを導きだそうという姿勢です。やはりこれは日頃から作家として、事実と虚構をうまく織り交せて物語を組み立てている清張の得意とするところだと思えます。

実際に私たち鷗外研究者が清張の「鷗外の婢」といった作品を「読んでも、どこが事実でどこが清張の創作なのかを判別するのは困難なくらいです。」

まとめ

以上のとおり、「両像・森鷗外」における清張の読みは、それぞれの部分で見ると鋭いと思わせるところがあります。しかし残念なことに、全体を貫く一つの筋のようなものがこの作品では見えにくくなっているように感じます。これは清張自身の晩年の体調等も関係しているのかもしれない。

ただし、清張の鷗外に対する理解の集約ともいえるようなものは、この作品を執筆するずっと前の時点ですでに存在します。昭和40年、発足して間もない森鷗外記念会の講演で清張が語つた内容です。この「『かのやうに』について」という講演の要旨が機関誌「鷗外1号」に掲載されており、その結びの部分で清張は

「この世に絶対的なものでない秩序にしばられ生活せざるを得ない人間の不合理さ、とあはれさ、現今の道徳、秩序を絶対的であるかのやうな幻想で受けとらねば一日もゆけない人間の弱さ、さういった考へが、鷗外などの作品にも読みとれるやうであります。」

と述べています。これこそが清張の鷗外論を貫く一本の筋であり、「両像・森鷗外」の根底にも潜んでいたはずだと私は考えます。

研究発表

松本清張の政治思想

— 言論界、大学、歴史記述

倉科 岳志

京都産業大学准教授



要旨

本研究では清張の政治思想を検討した。まず、清張のフィクション作家としての才がノンフィクションを描く際にも活かされたことを指摘し、続いて清張が自らの在野という立場を自覚し、その意義について深く考察していたことを解明した。

清張は滝川事件や二二六事件などの研究を通して天皇制そのものに着目し、日本の言論界に継承されている天皇制イデオロギーと切り結ばねばならないと考えた。これが清張に近代日本史諸著作を執筆させた根本動機である。「象徴の設計」における天皇論が政略的で史実に反する俗論であるとの批判を経て、清張は自らの天皇論を歴史著述によって実証すべきとの考えに至り、その後の「昭和史発掘」や「北」輝論」では歴史評論として客観性を持たせた記述をする。長年にわたり史料の収集や研究に努め、「万世系」天皇制の研究」では天

皇家の歴史を古代から叙述し、「神格天皇の孤独」では明治以降の天皇とその周辺の権力関係を描いた。

また清張は天皇制とともに、日本社会に延々と続く官僚の支配体制をも批判した。「現代官僚論」で日本におけるエリート偏重に立つた官僚論を展開し、その集団制に注目した「私観・昭和史論」では、責任の所在が不明確になるといふ問題点を指摘している。

そして清張は権力側のみならず、権力を批判し方向転換を迫るべき大学や知識人、そして新聞の姿も「小説東京大学」や「火の虚舟」等で描いた。清張は天皇制という根本問題に加え、歴代の指導者や社会で重要な役割を担うべき言論界が決定的な局面で間違つたと考えたのである。

このように清張が近代史にこだわつた最大の理由は、自らの半生を苦しめていた昭和という時代を描き、その原因を一つの物語として、当時の日本に生きた人々や後世の人間と共有したいとの思いであった。つまり、「昭和の苦しみの原因とは、明治に構築された天皇神権主義とそれを支えた官僚制にあり、これらに抵抗しようにも、知識人は及び腰であり民衆も絶えず抑えられ続けた」というのが清張の導き出した答えである。

近代国家の中で苦しみを味わいながらも、ナショナルな意識から自由であり続け、言論界の中核となつた清張には、自分こそが社会や政治を批判すべき責任あるのだという使命感があつたのではないか。昭和史学史に優れた貢献をなしたその意志は現在、次の世代に継承されている。

期間延長の
お知らせ

現在開催中 開館20周年記念プレ事業

開館20年の軌跡展

～終わりなき探求～



展示期間 好評につき、開催期間を
5月20日(日)まで延長します。

会場 松本清張記念館 地階企画展示室
地階のみ観覧無料、常設展示は有料です。

まもなく平成も終わりを迎えます。
記念館のあゆみとあわせて、皆様のこの二十年を
振り返る機会になると幸いです。ぜひご来館ください。



明るく落ち着いた雰囲気
の会場内には、著名人の
方々からお寄せいただ
いたメッセージなど、ここ
でしかご覧いただけない
貴重なものを多数展示
しております。



これまでに開催した全企
画展のポスターを一面に
掲示した壁や、全長7メ
ートルにわたる記念館の年
譜など、圧巻の展示で皆
様をお迎えいたします。

松本清張記念館は、平成30年8月4日に開館20周年を迎えます。

開館20周年記念イベント

- 特別企画展 前期・「清張オマージュ展」、後期・「砂の器展」を開催
- 清張ドラマ関連トークショー(6月) 清張ドラマのプロデューサーと脚本家によるトークショー
- 開館20周年記念講演会(8月) 開館記念日に、作家・横山秀夫氏による講演会を開催
- 「砂の器」シネマ・コンサート(11月) 九州初、「砂の器」の映画と生演奏の融合

〈友の会との共催事業〉

● 文学散歩(ツアー)

「ゼロの焦点」の舞台・能登、金沢へ

● 朗読劇

前進座による朗読劇が、今年は2日連続公演

〈その他・シネマ関連イベント等〉

詳細は市政だよりやチラシ等でご案内します。

20周年
記念企画

あふれる想いを… 5

いよいよ、開館20周年の年に突入しました。この記念企画も残すところあと3回となります。今回は、元朝日新聞社社長で、松本清張と親交が深かった中江利忠さんに、とびきりの思い出「弔辞朗読始末記」を、寄稿していただきました。



元朝日新聞社社長
中江 利忠 氏

弔辞朗読始末記

松本清張さんを思い出す時、必ず蘇ってくるのが平成四年八月十日午後一時半、青山斎場で開かれた「おわかれ会」で千百人余の参会者を前に、私が一人だけの追悼の辞を朗読した顛末であります。

清張さんの悲報に接したのは、四日夜十一時過ぎのご他界から半日後、私は夏休みの伊豆一泊旅行の帰り道で、マイカーのラジオで聴いた五日正午のニュースでした。四月二十日の脳出血で東京女子医大病院で手術、リハビリが順調に進んでいると聞いていただけに、見舞いにも行けなかった後悔から、浜田山の私の自宅に着替えるのもどかしく、その先一キロ足らず、行きつけの高井戸東の清張さん宅に急行しました。

長女・淑子さんの夫、当時駐イタリア大使の渡辺幸治さんに奥に呼び込まれ、ちょうど親族会議が終わった結論を聞かされました。「おわかれ会」は十日、弔辞は一人だけにして、出身の朝日新聞の代表で、作品の舞台を朝日の専用機で空から確認する念願の旅を八カ月前に共にしたばかりの中江さんに決めた、との趣旨でした。十日は朝日新聞主催、高校野球甲子園大会の開会式に当たるので難しい、と答えますと、「時間をずらすから、どうしてもやってほしい」との再三の懇望で、光栄でもあり受諾することにしました。

早速、弔辞の準備にかりました。六日には清張さん宅を再訪してご遺族からあらためて取材。七日から九日までも関西での予定が立て込んでいたため、東京本社の調査部から取り寄せた来歴のコピーを、夜ホテルで整理しながら書き進めて携帯用ワープロに打ち込み、奉書紙に筆ペンで直接書き上げて完成したのが、当日の十日午前一

時半ごろでした。

当日がまた、大変でした。午前九時からの甲子園大会開会式では、大会会長の私の挨拶の後、いつもは文部大臣が挨拶して始球式もやることになっていましたが、大臣が政務で来られなくなったため、慣例により代わりの政務次官が挨拶だけして、始球式は私がやることになったのです。睡眠不足のまま投球して記念のボールを受け取ると、外に待たせた車に飛び乗り、車中で大会ユニホームを喪服に着替え。西宮海岸の砂地に待つ、つい数分前にその始球ボールをグラウンドに落としたばかりの社のヘリに移乗して、伊丹の大阪空港へ。八カ月前に清張さんと同乗した社のジェット機に乗り換えて羽田へ。ここで東京本社のヘリに乗って築地の本社屋上。玄関に待つ車の中でサンドイッチをつまむと、甲子園から二時間余りの目的地、青山斎場がそこにありました。

斎場入口で平松守彦・大分県知事から「さっきテレビで見た甲子園からどうやって来たの？」と聞かれるほどの、アクロバットでした。弔辞の中で私はこう述べました。「この会に間に合うように、朝日新聞のジェット機とヘリコプターを乗り継いで駆け付けました。ジェット機の隣の空席には、八カ月前に作品の舞台に向けてシャッターを切り続けた青年のような清張さんが、まぼろしとなって鎮座しておられました」

こうして約四一〇〇字の「お別れのことば」を、私は十五分かけて読み上げました。新聞記者を超えたデータ主義で私にも懇切なご指導を頂いた、清張さんとの十数年間で。その私を、記者時代のようにこんなに走らせ、リフレッシュもさせてくれた斎場の清張さんには、文字通り「敬愛」の一語しかありません。

清張オマージュ作品を教えてください!

松本清張記念館は今年開館20周年を迎えます。これを記念して当館では「清張オマージュ展」を夏期に開催する予定です。**松本清張や、清張作品への愛を、文章や絵、漫画などの作品で表現したもの**を、できるだけ多くご紹介したいと思っています。ご存知の方は、是非とも情報をお寄せください。**お待ちしております!!**

例えば……

この前読んだ小説に
清張が出てきたよ!



清張の本が出てくる
漫画があった!



著名人が、好きな作家に
清張の名前を挙げていた



オマージュ: homage(フランス語)とは ①尊敬、敬意。②賛辞、献辞「広辞苑」より

応募・お問い合わせ先

〒803-0813 北九州市小倉北区城内2-3
松本清張記念館 オマージュ係

TEL 093-582-2761 FAX 093-562-2303

E-mail shi-seichou@city.kitakyushu.lg.jp

※当館の公式ウェブサイト、トップページから送信できます。

たくさんの情報をありがとうございます。

展示品紹介

『海外の地図、パンフレット』

松本清張が初めて海外旅行をしたのは、一九六四年のことだった。アジア初のオリエンティックが東京で開催された年であり、日本の経済発展と国際化を反映するように、日本人の海外渡航が自由化された年でもあった。このタイミングで、ヨーロッパを巡る企画が、出版社から持ち込まれたのである。この時のことは「セイ」ヨーロッパ20日コースをゆくに詳しい。以降、清張は、毎年のように海外へ取材旅行に出かけるようになる。

展示室1の年表「松本清張とその時代」では、その晩年において、積極的に海外取材を行ったことを示す資料が展示されている。その一つが、外国の地図やパンフレットだ。

中央に抜げられた地図はアイルランドのもの。この地図をよく見ると、島の真ん中あたりに、万年筆のインクで「Temple toury」(※注1)の文字が四角で囲んであり、その下に「泥炭地」と書かれている。



抜げた地図の上にあるのは、ソ連西部の地図、バーテン、パンフレットの、プラハの地図、キューバの地図、ハデルベルグの地図。

取材旅行に同行した編集者によると、清張は、旅行前から泥炭地に行きたいと言っていたのだという(※注2)。小説には、次のように描かれた。

あれはこの地方で採れる泥炭だ、もともと村びとが所有地にシヤベルを入れて振り出し、燃料にしたり越冬の暖炉用に使っていたのだが、このごろは企業が入りこんで土地を買い占め、泥炭も電気掘鑿機やクレーンを使って大仕掛けに採掘をしている。

「呪術の渦巻き文様」(『草の径』)

最晩年の取材旅行は、ちょうどしたハプリングやトラブルの連続だったようだ。それでも清張は、この時の取材を振り返り「あの旅行は楽しかったね」と何度も語ったそう。地図に残された手書きの文字は、そういった清張の思いを、今も静かに物語っている。

(学芸員 柳原暁子)

※注1 清張手描きの図(左)は「Temple toury」とあるが、現代の地図で探ると「Templetoory」という表記である。



右図出典『草の径』取材日記(二〇〇二年松本清張研究「第三号」)

※注2 『草の径』取材随行者座談会(二右同)。

作品の舞台を訪ねて

「時間の習俗」② — 都府楼社にて

二章に入ると、古式ゆかしい和布刈神事の描写から一転、小説の舞台は相模湖畔の宿屋へとうつっていく。

宿屋を訪れていた男女の客が、夜更けに外出したまま戻らず、やがて男性が遺体で見えなくなる。いっしょに外出したはずの女性は行方不明となり、重要参考人として捜索が進められていく。

ここで登場するのが、「点と線」に出てくる三原紀一警部補である。警視庁から捜査本部に応援に来ていた三原警部補は、亡くなった男性、土肥武夫の葬儀の場で会った峰岡という男のことが気にかかりだす。峰岡が九州で訃報を知ったと話しているの聞き、アリバイ確認の手紙が、捜査本部から福岡署へ出される。そこに回答を書いたのが、やはり「点と線」の登場人物である鳥飼重太郎であった。

三原紀一は、この回答書に見入った。回答の内容の検討よりも、鳥飼重太郎という名前がなつかしかったからだ。

(文藝春秋『松本清張全集1』「時間の習俗」より)

ここから三原警部補の推理が始まる。三原警部補がどんなに考えても、犯行推定時刻に和布刈神事を見ていたという峰岡のアリバイはなかなか崩れない。和布刈神事の写真正しいのか、証拠があるのか。峰岡が写っていたのは、間違いなくその日その時の和布刈神事の写真正であるという裏づけもとれる。

しかしほかに有力な容疑者がいないこともあり、三原警部補はあ



大宰府政庁跡

提供: 大宰府市

きらめずに自分の推理をたどっていく。そんな中、再び鳥飼から、峰岡が自分で言っている以外の場所にも顔をだしていたことを知らせる手紙を受け取る。

ちょうど、西鉄営業所のある窓口に峰岡氏が立っていたそう。つまり、そこは普通の乗車券を売る窓口ではなく、定期券を出す窓口には違いなかったというのです。

(文藝春秋『松本清張全集1』「時間の習俗」より)

捜査に行き詰まっていた三原警部補は、峰岡になぜそこに立っていたのか、と聞きに行く。峰岡は西鉄営業所の窓口で切符を買い、「都府楼社」を見に行つて四十分ほど俳句を作っていたと答える。

「都府楼社」について峰岡は

「そこには、都府楼の礎石がそのまま残っていて、ましてね。」

(文藝春秋『松本清張全集1』「時間の習俗」より)

と説明している。「都府楼跡」を訪ねてみると、確かに静かなところで、気候がよければ、心を落ち着けて俳句を作るのに適していると感じられたが、峰岡が行ったのは二月。寒風の中ここに四十分も座っていられるのだろうか？

天平の礎石にわが影の凍ており 峰岡周一

(文藝春秋『松本清張全集1』「時間の習俗」より)

という句に詠んでいるとおり、凍て付くような寒さだったのではないだろうか。(檜垣一美)

研究誌「松本清張研究」〈第十九号発刊〉

特集 清張の多様性

座談会

「多様な清張の世界」

阿刀田高・保阪正康・山田有策・藤井康栄

論文

松本清張に本当の『天皇実録』を書いてほしかった……佐野真一

松本清張『昭和史発掘』の位相……成田龍一

松本清張の評伝小説……松本常彦

松本清張古代史論

——清張の生い立ちと天分と

文学的環境と歴史家への道……久米正雄

寄稿(再録)

松本清張記念館開館二十周年に寄せて

投稿

松本清張「穴の中の護符」と「半七捕物帳」

——「擬本」という方法——……吉野泰平

記念館研究ノート

昭和の終焉と呪術の世界——松本清張と村上春樹……柳原暁子

記念館だより 編集後記

友の会 活動報告

● 清張サロン

清張サロンは毎回、清張作品や清張に関する話題をテーマに、講師を招いてのお話や参加者との意見交換・交流を目的に開催しています。

昨年11月と2月に、下記のとおり2回開催しました。

第2回清張サロンは、松本清張と池波正太郎をテーマに、二人の作家の共通点などについてお話していただきました。

第3回は「松本清張記念館開館20年の軌跡」と題し、当館職員がリレートーク形式で、開館当時のエピソードや記念館の取り組みなどについて話しました。

第2回 平成29年11月25日(土) 14時～16時 参加者52名

- 会 場：記念館 企画展示室
- テーマ：「松本清張と池波正太郎」一時代劇の魅力一
- 講 師：加島巧氏(長崎外国語大学教授)

第3回 平成30年2月11日(日) 14時～16時 参加者34名

- 会 場：記念館 地階ホール
- テーマ：「松本清張記念館開館20周年の軌跡」
- 講 師：松本清張記念館職員
(丸田館長代行、小野学芸員、柳原学芸員、下澤主任)



● 生誕祭

平成29年12月15日(金) 参加者52名

記念館 企画展示室

松本清張さんの108回目の誕生日を友の会会員でお祝いする「生誕祭」を開催しました。今回は、筑紫女学園大学教授の大津忠彦さんに「清張さんの『108歳』に学ぶ」というテーマで講演いただいた後、友の会の小林慎也会長と一緒に、清張さんに代わってケーキのローソクを吹き消していただきました。

歓談中に、丸田館長代行による記念館の事業報告等を行い、最後に、山崎笠山さん(尺八)、宮本直美さん(箏)によるミニコンサートを鑑賞しました。

各テーブルに配られたケーキとコーヒー、講演、演奏と盛りだくさんの内容で、和気あいあいと会員同士の交流も深まる生誕祭でした。



● 友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集 ●

松本清張記念館友の会は8月1日～翌7月31日を1年度として、文学散歩や清張サロン、講演会、生誕祭、「友の会だより」の発行、記念館に関する情報提供など多彩な事業を展開しています。年会費は3,000円です。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

友の会入会のお申込は、松本清張記念館友の会事務局まで
TEL.093-582-2761



平成30年度
中学生・高校生

読書感想文コンクール

若年層に清張作品に親んでもらうとともに、表現力を学び、豊かな心を育む契機となればという思いから始まりました。

新時代を切り開く若者達へ、探求の人・松本清張の精神の伝達を働きかけるものです。

■ 応募対象 全国の中学生・高校生

■ 課題図書 中学生・高校生ともに下記から1作品

「西郷札」(『西郷札』新潮文庫、『西郷札』光文社文庫)

「顔」(『張込み』新潮文庫、『声』光文社文庫)

「ゼロの焦点」(『ゼロの焦点』新潮文庫)

■ 応募方法

○中学生、高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。

○手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし全体の字数がわかるよう応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。

○原稿は自作で未発表のものに限ります。なお応募原稿はお返しいたしません。必要な人はコピーをおとりください。

■ 応募締切 平成30年9月30日(日) ※当日消印有効

■ 応募先 〒803-0813 北九州市小倉北区城内2番3号
松本清張記念館 読書感想文コンクール係

※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

■ 選考 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■ 発表

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、11月中旬頃、本人と学校に通知し後日表彰式を行います。なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表する予定です。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■ 賞(受賞人数等変更の場合もあります。)

○最優秀賞(1人)

○優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人)

○佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人)

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各1回ずつの受賞と限りさせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は〈特別賞〉として当館発行の「館報」掲載を予定しています。

●協力 モンブランジャパン

応募先
問い合わせ

〒803-0813 北九州市小倉北区城内2番3号 松本清張記念館 読書感想文コンクール係
TEL 093-582-2761 FAX 093-562-2303

講演に行ってきました

平成29年度も、松本清張の魅力をより多くの皆様にお届けするために、清張の人物や作品、北九州への想いなどをテーマに講座、講演を行いました。

日付	主催者・会場等
9/13	白野江市民センター
10/7	記念館・生涯学習指導者育成セミナー
10/25	小倉ロータリークラブ
11/8・15	貴船市民センター
11/27	記念館・はじめて聴く清張講座④
12/26	北九州市立大学
2/2・9	北九州年長者研修大学校(穴生学舎)
2/8	青葉市民センター
2/15	門司元気塾
3/24	「点と線」香椎桜まつり(香椎公民館)

●編集後記● 寒かった冬が終わり、記念館周辺にも桜の季節が巡ってきました。4ページにも書いていますが、開館20周年の記念イベントが始まります。20年という時の重みを感じつつ、ワクワクしながら準備を進めています。「開館20年の軌跡展」も好評により、5月20日まで延長しております。みなさまのご来館を心からお待ちしております。

(K.H)



イラスト:山藤 章二

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内2番3号
TEL 093(582)2761
FAX 093(562)2303
http://www.kid.ne.jp/seicho
制作 (株)ハーティブレーション

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉駅からはバスをご利用いただく便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

